



返答時間に変動のある チャットボットの開発

総合情報学科 知能情報システム研究室
永井ゼミ 4年 北見浩志

目次

- ▶ 動機
- ▶ 目的
- ▶ 作成方法
- ▶ 評価方法
- ▶ 研究計画
- ▶ 課題点

動機

- ▶ 人間に近いチャットボットを作りたい
- ▶ チャットボットの多くが即座に応答するものなので
入力した文章によって応答時間に変化を付けたい

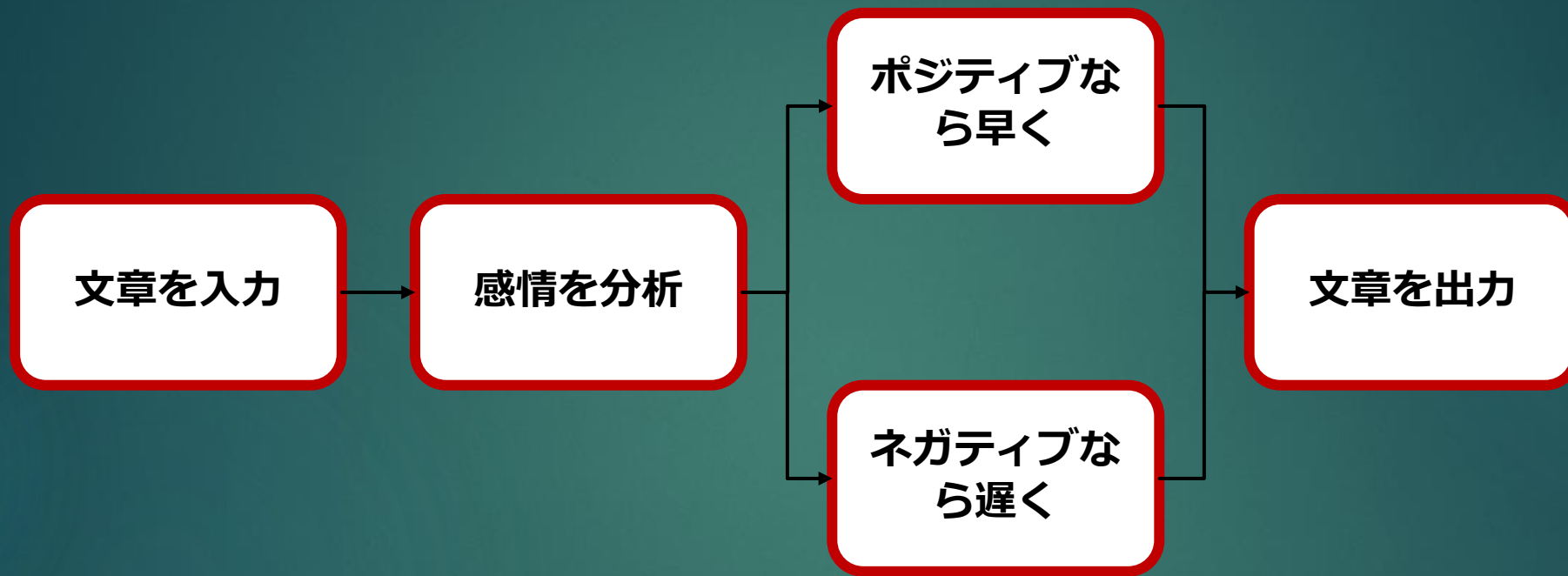
目的

- ▶ 文章から感情を読み取り、それにより返答時間に違いを起こさせることによって人間特有の反応を再現させる
- ▶ 返答に優先順位をつける

チャットボットの作成方法

- ▶ Pythonによるプログラムの作成
- ▶ 感情分析には既存のAPIを使用
 - ▶ Microsoft Text Analytics API

システムの流れ



例：早急にご返信ください→即座に返答

評価方法

- ▶ 評価方法は文章から読み取られた感情と返答時間の
正確性を評価する

研究計画

- ▶ 4～6月：言語の学習
- ▶ 6～10月：プログラム作成
- ▶ 11～3月：論文作成
- ▶ 進捗状況：10%

課題点

- ▶ チャットボットは既存のものを利用するのか、又は自分で作るのか
- ▶ 教師データは何を使用するのか

参考文献

▶ Microsoft Text Analytics API

- <https://azure.microsoft.com/ja-jp/services/cognitive-services/text-analytics/>